



椎原医院跡(南九州市勝目麓)



山之口麓文弥節人形浄瑠璃館



その時少年は神になる  
高山四十九所神社流騎馬  
今年も14才の若武者は  
たった2ヶ月の練習で立派  
にやり遂げました。

理事長 今井 俊子

NPO法人かごしま新発見伝塾

来年も夢と希望を胸に歩んで参りましょう。  
どうぞよい年をお迎え下さい。

今年度の夏は世界的な異常気象が更に進み、地球の未来に暗雲が垂れ込める状態が続いています。地球の人口は八億人を超え、これから爆発的に増えると言われます。世界のリーダーたちは智慧を出し合い、私たち一人一人も青い地球を未来につなげていく努力を続けて行きましょう。この一年、私共の活動を支え、応援を賜り感謝申し上げます。

ご挨拶  
師走に入りましたが、皆様ご健勝のことと拝察致します。

# ひ つ と と べ ● 第十二号

発行者  
NPO法人  
かごしま新発見伝塾  
〒890-0023  
鹿児島市永吉 3-19-17  
ザ・ビューヒルズ 208  
Tel 099-800-1521  
Mail [info@kagoshima-shinhakken.net](mailto:info@kagoshima-shinhakken.net)  
<http://www.kagoshima-shinhakken.net>



### 祝吉御所跡

島津家発祥の地と言われ、島津荘の中心地であったとされる。忠久の館跡とあるが、当人は下向していない。

高山麓六ヶ所日高家武家門  
かって高山郷知行筆頭300石の  
日高家の立派な武家門



### 街歩き

神秘的な梅ヶ淵不動堂  
滝がたたたり、多くの像があって  
様々な祈願ができます。昔はお参りの多さに玉江橋が出来たという。

街歩き

今井俊子

今年六回開催した街歩きの中からご紹介するのは

「旧鹿児島刑務所跡から小松帯刀別邸まで」

◆旧鹿児島刑務所跡

跡地は現在の鹿児島アリーナです。

明治四一年(1908)鹿児島市西田町出身の山下啓次郎が設計した日本の五大監獄の一つである。(千葉、金沢、奈良、



現在の旧鹿児島刑務所の門

長崎、鹿児島)その中でも鹿児島だけが小野石と呼ばれる美しい石で造られた。現在は堂々とした正門が残されて偉容をみせる。(ジャズピアノスト山下洋輔は啓次郎の孫である)

◆石井手用水

江戸時代、島津一七代斉興が甲突川から取水し、洪水対策と水田灌漑用に造った用水路。小野、永吉、原良、西田、荒田まで整備された水田の畦道には桜の木が植えられ、夏はホタル、秋は黄金の稲穂、冬は野鳥が越冬し、四季を通じて人々を和ませる観光地であった。甲突川に架かる鶴尾橋から想像すると、鶴もシベリアから飛来してきたと想像できる。島津一五代重豪が刊行した「成形成図説」にはマナヅル、ナベヅルが美しく描かれている。



往時の太鼓橋



マナヅル



ナベヅル

石井手用水は近くの小野で採掘した小野石を積み上げて出来た美しい用水路であるが、この工事に従事した人夫たちは、広い水田に満々と水が注がれる様子を想像し、誇りを持って取り組んだに違いない。この用水路



は後に島津二八代斉彬によつて「水車館織場」(現ハートピア鹿児島)の場所にも利用された。

◆花岡屋敷(別荘)

島津二二代継豊は現在の鹿屋市鶴翔地区に花岡郷という私領地を成立させ、石高八、三〇〇石の花岡島津家を創立。初代当主は島津一〇代綱貴の子、久傳。花岡島津家の上屋敷は今の天文

館東千石町のいわさきパーキング電車通り側から東は天文館アーケード、北はピラモールまでの三、六〇〇坪。石井手用水に沿って別荘が作られたのが、バス停「花岡屋敷」の辺りである。(現在個人の所有地)上屋敷は鶴丸城を中心とした、開かれた中心部に造られたが、別邸は隠れた穴場の石井手用水沿いなどに造るのが流行だったかも知れない。街歩きの楽しさはその時代に出会え、その風景や、その時代の人々に出会えるような体験が出来ることだ。

◆小松帯刀別邸跡

石井手用水から少しのぼった高台、原良温泉の近くにある。高く積み上げられた石垣の上に建てられた別邸は様々な木に囲まれた閑静な邸宅だったのではないか。青年家老として重職を担った帯刀はこの別邸で日々の疲れた身体と心を癒したのだらう。

慶応二年(1866)

には坂本龍馬と妻のお龍が滞在している。別邸の目の前に雄大な桜島が錦江湾にどっかりと腰を据えている風景に一人はたちまち鹿児島が大好きになったに違いない。



小松帯刀別邸跡の石垣

バスツアー紀行文

今井俊子

「原口泉教授の野外歴史教室」

〜島津氏のふるさと都城を訪ねる〜

十一月十六日八時半、小雨の中鹿児島中央駅西口を出発。原口先生が貴重な資料を沢山用意して下さり、車内で早速解説して頂いた。

(一) 島津発祥の由来

平安時代中期、大宰府の役人、平季基は荒地だった日向の諸県郡を開墾し、関白藤原頼道に寄進した。島津荘の始まりである。そして開墾地は拡大されていった。シラス土壌が広がる大地には大淀川をはじめ、多くの河川があるので、水田は容易に作られ豊かな土地だったのだろう。源平合戦の後、元暦二年(1185)源頼朝は戦に勲功があった惟宗忠久を島津荘の下司職に任命し、薩摩、大隅も与えた。この時、忠久は惟宗姓から島津を名乗った。

祝吉御所が島津発祥の地といわれ、都城市郡元に記念碑が建立されている。

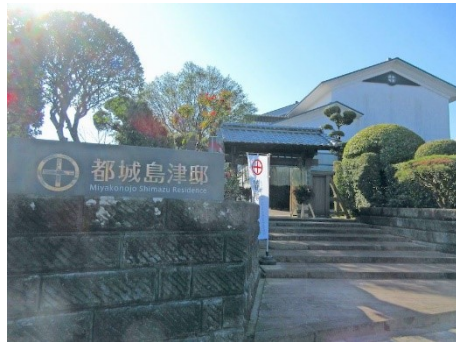
(二) 島津本家と都城の成立

島津忠久は比企の乱(建仁二年・1203)に関わったという疑いで島津荘を没収され、管理は薩摩国だけになった。島津荘は北条氏が治め、南北朝時代は足利尊氏が治めた。この頃島津四代忠宗の六男資忠は足利方として働き武勳を立てた。その褒賞として島津庄内の北郷一帯を与えられ、地名から「北郷」姓を名乗った。以後六五〇年都城を治めることになった。

(三) 都城の名の由来

永和元年(1375)北郷家二代義久の母方の祖父、宮丸藏人から譲り受けた都島(宮古島)の城を整備し、都島の城から「都城」と呼ぶようになった。今の都城歴史資料館が建つ城山公園一帯、一五ヘクタールの山城であった。慶長二〇年(1615)の知行目録によれば北郷家は四四、〇〇〇石と記録されている。江戸時代に入ると北郷家の直系は一四代忠亮で途絶え、一五代から一八代は島津本家の一八代家久、一九代光久の実子を養子に迎えたということから北郷家を「都城島津家」と改めた。

都城島津家や種子島家には「中抑」「上置」が任命され、本家とつながっていた。二つの家は鹿児島から遠く離れており、自立性・自律性が高く、本家から何事も相談して決めることを求められていた。



(四) 昼食「あつかいがすいレストランまえた」

NHK Eテレで放映された「都城」あつかいがすい古民家レストランを偶々見て今度の昼食場所はここにしたいと決めた。武家屋敷の薬医門をくぐると二千坪の敷地内には清水が流れ、クレンソウが自生する一敷地内で採れた山菜、野菜、卵などを使った料理が楽しめ、古民家から江戸時代の雰囲気もたっぷり伝わってくる。料理も素

晴らしいが、器が凝っているものばかりで、目と舌で味わえる素敵なレストラン。

「あつかい」とは「曖」と書き、江戸時代の藩の役人のことである。藩の直轄地山之内町郷には地頭の下に「曖」「組頭」「横目」の三役があり、前田家は「曖」役であったといっわけである。北側に客間が作られているのは薩摩風なのだろうと、現存する貴重な建築物である。この日は四十五名のランチだったのでフンプレートで料理が盛られていたが、通常は「コース料理で楽しめる。是非お出かけ下さい。



(五) 都城島津家の貿易

古代の荘園の港は志布志港だった。ここから夜光貝、赤木、ビロウなどが京都に運ばれた。日宋、日明貿易を経て、江戸時代には「志布志千軒」いらかの街も出船千艘の帆に隠ると、その賑わいぶりが謳われた。近世に入ると砂糖藩と薩摩藩の間で砂糖杉の伐採をめくり、半世紀に亘って論争が続いたが、幕府の採決は砂糖藩に軍配を挙げている。砂糖杉は天に向かって真っ直ぐに伸び、樹脂も多いことから、

北前船をはじめ木造船の材料に最適であった。又、江戸中期財政難から藩の許可を得て、鹿倉山の木材から多くの櫓木(船漕ぎの道具)を生産し、全国で最良品との評価がなされていて、一本当たりの価格は銀二〇匁(三万円)で六千本を積出し合計一億八千万円になったという。

天保年間に藩の財政改革を担った調所笑左衛門は琉球を通じて中国との貿易に力を入れ、山川で精力的に活躍し、大船を持ち富を築いていた浜崎太平次を重用した。指宿の湊には三〇数隻の船を持ち、三五反帆という巨船まで保有していたという。この頃福山で黒酢が造られるようになり、都城の寒冷地に目を付けた調所は、山之口という場所に秘密の寒天工場を作り、寒天製造に欠かせない黒酢を福山から運び、寒天を作り、浜崎太平次と図つて福山から中国へ貿易をさせた。山之口の工場には三百人も職人が働いていたそうである。現在も往時の面影を知ることができる。



島津寒天工場跡

\*原口泉先生から配布された資料を元にまとめました。今回も素晴らしい旅でした。ありがとうございました！

編集後記 NPO発足10周年を機に紙面を工夫しよう……。やっぱりいつものように落ち着きました。気楽にお読みください。  
編集責任者 今井征男

2025年度の事業カレンダー

12/22(日)現在の予定表です。変更になる場合がありますので

カテゴリー	回	月	日	曜	カテゴリー	テーマ
歴史よもやま話 10:00~11:40 会場 市福祉プラザ 4F 小会議室 資料代 200 円 要予約 27 名限定						
	前	1	23	木	歴史よもやま話	天璋院篤姫~~島津登志子さん講座~~
	前	2	27	木	歴史よもやま話	“べらぼうめ”高輪下馬將軍島津重豪
	前	3	27	木	歴史よもやま話	丹後局と比企一族
	1	4	24	木	歴史よもやま話	サツマスチューデント~長沢鼎~
	2	5	29	木	歴史よもやま話	町田久成と国立博物館の設立
	3	6	26	木	歴史よもやま話	肝付家と大隅
	4	7	24	木	歴史よもやま話	肥後から薩摩への路~もっこすと隼人~
	5	8	28	木	歴史よもやま話	私たちは黒豚が食べたい~黒豚の歴史~
	6	9	25	木	歴史よもやま話	からいもは世界を救う~からいも交流~
	7	10	23	木	歴史よもやま話	黄金千貫の生みの親~坂井健吉
	8	11	27	木	歴史よもやま話	いよいよ大河ドラマ「豊臣兄弟」
街歩き 10:00~12:30 会費 1,000 円(資料代、保険代含む) 2 日前までに要予約 15 名限定						
	前	3	20	木	第 88 回街歩き	上町の三社詣でと知られざる歴史散歩
	1	4	17	木	第 89 回街歩き	樺山資紀、黒田清輝、花岡島津家(高見橋から天文館)
	2	9	18	木	第 90 回街歩き	西郷さんを偲んで、城山・終焉の地
	3	10	9	木	第 91 回街歩き	旧鹿兒島刑務所、石井手用水、小松帯刀別邸跡まで
	4	11	6	木	第 92 回街歩き	水上坂と斉彬、西田小と税所敦子・八田知紀・西郷家墓地
	5	12	2	火	第 93 回街歩き	桐野利秋と南洲墓地の若者たち
バスツアー						
	1	4	26	土	指宿	「原口泉教授の野外歴史教室」豪商浜崎太平次
	3	11	29	土	出水	薩州家、秀吉の腰掛石、麓武家屋敷・宮路邸とみかん狩り

※12月20日現在の予定表です。変更がありましたら、随時ホームページ等でお知らせします。